

疾患名：再発又は転移性乳がん・術前術後化学療法 1クール：21日

総クール数：術前、術後補助療法は4クール(EC4クール後)、進行・再発はPDあるいはPS悪化まで

1. 薬剤

抗癌剤一般名	商品名	標準投与量	投与日	用量規制毒性
ドセタキセル	ドセタキセル	60~70mg/m <sup>2</sup>	Day1	骨髄抑制(好中球減少)

2. レジメン

投与日	Rp	ルート	投与時間	使用薬剤名	標準投与量	備考
Day1	1	点滴静注	キープ&フラッシュ用	生食 100mL		血管外漏出・逆血予防のルート確認 ケモ終了時ルートのフラッシュ用にも使用する ※全量投与しなくてもよい
	2	点滴静注	30分	デカドロン注(3.3mg/1mL) 生食 50mL	2A	
	3	点滴静注	60分	ドセタキセル注 (20mg/1mL)(80mg/4mL) 生食 250mL	60~70mg/m <sup>2</sup>	重篤な過敏症状があらわれることがあるので、特に初回及び第2回目の投与時は、観察を十分に行うこと

3. 初回投与基準

- (1) PS:0、1、2
- (2) 白血球数≥4000/μL、好中球数≥2000/μL、血小板≥10万/μL、Hb 8g/dl以上
- (3) 主要臓器能が保たれている。浮腫がない。
- (4) 感染症又はその疑い(CRP異常、発熱、白血球異常増多)がない

4. 次クール開始基準 (2クール目以降、開始当日又はその前日に以下の条件を満たすこと。下記以外は初回投与基準に準じる)

- (1) 好中球数≥2000/μL

5. 減量・中止基準 (前クール投与後に下記のいずれかに該当した場合は減量する)

- (1) Grade4の好中球減少(<500/μL)が発現した時は次回の投与量を減量すること
- (2) 肝障害がある場合(正常値の2.5倍以上、ビリルビンが正常値の1.5倍以上)は減量又は投与を中止すること
- (3) 減量の必要性が認められた場合は減量の目安に従って減量すること (下表参照)

6. 投与時の注意点

- (1) 溶剤として無水エタノールが含まれているので、アルコール過敏の有無に対する問診を実施すること
- (2) 一般にドセタキセルの総投与量が350~400mg/m<sup>2</sup>を超えると浮腫の発現頻度が上昇するがステロイド剤の使用により体液貯留・浮腫の出現時期を遅らせることが可能である。予防策として投与前日からデキサメタゾン16mg/日の3日間投与すると、浮腫の発現時期を遅らせることが可能である

初回投与量	1段階減量	2段階減量
70mg/m <sup>2</sup>	60mg/m <sup>2</sup>	50mg/m <sup>2</sup>
60mg/m <sup>2</sup>	50mg/m <sup>2</sup>	休業

- (3) 血管外漏出に注意すること (ドセタキセルは少量の漏出でも水疱性皮膚壊死を生じやすいため注意)
- (4) 肝機能が低下している場合では毒性が増強されるおそれがあるため注意する

- (5) タキサン製剤の取り違えに注意する